

官報

號外 昭和十三年三月十三日

第七十三回 貴族院議事速記録第二十三號

昭和十三年三月十二日(土曜日)午前十時十八分開議

議事日程 第二十三號

昭和十三年三月十二日

午前十時開議

第一 暫和十二年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)

會議(委員長報告)

第二 暫和十二年度各特別會計歲入歲

出豫算追加案(特第一號)

會議(委員長報告)

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契

約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

會議(委員長報告)

第四 臨時軍事費豫算追加案(臨第一號)

會議(委員長報告)

第五 暫和十三年度歲入歲出總豫算追

加案(第一號)

第六 暫和十三年度各特別會計歲入歲

出豫算追加案(特第一號)

會議(委員長報告)

第七 不動產融資及損失補償法中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和七年法律第一號中改正法律案

造幣局東京出張所廳舍其ノ他ノ新營費ニ
關スル法律案

有價證券引受業法案可決報告書
請願委員會特別報告第六號

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

對支文化事業特別會計法ノ特例ニ關スル
法律案

支那事變ニ關スル臨時軍事費ノ財源ニ充
ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關スル
法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

軍ノ需要充足ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關ス
ル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案
ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

擔保附社債信託法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十二年度歲入歲出豫算追加案(第
二號)、昭和十二年度各特別會計歲入歲出
豫算追加案(特第一號)、豫算外國庫ノ負
擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追
第一號)、臨時軍事費豫算追加案(臨第一
號)、昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)、昭和十三年度各特別會計歲入
歲出豫算追加案(特第一號)可決報告書

不動產融資及損失補償法中改正法律案可
決報告書

產業組合中央金庫法中改正法律案可決報
告書

漁業法中改正法律案可決報告書

產業組合中央金庫特別融通及損失補償法
中改正法律案可決報告書

第一 暫和十二年度各特別會計歲入歲出豫
算追加案(臨第一號)

一昭和十二年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

二昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

○議長(伯爵松平賴壽君) 告白

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ参照
ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

一昭和十二年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

二昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

三昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫
算追加案(臨第一號)

四昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

五昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫
算追加案(臨第一號)

六昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

七昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

八昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

九昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

十昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

十一昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

十二昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

十三昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

十四昭和十三年度歲入歲出豫算追加案
(第一號)

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十三年三月十一日

副委員長 男爵千秋 季隆

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔男爵千秋季隆君演壇ニ登ル〕

吳鑑二種卷題考

二年歲在壬辰正月一日

號 昭和十二年度各款別會計歲入歲出預算

這方案號第一號 諸君外國風氣質地日不凡

軍事費豫算追加案臨第一號、昭和十三年度

歲入歲出總豫算追加案第一號、昭和十三年

度各特別會計歲入歲出豫算追加案特第一

號
以上ニ付キマシテ豫算委員會ノ經過並

總理吳三桂辭官回籍，清軍至貴州，

六月六日三日一早這三日間關會到此，

案ノ説明ヲ聽取致シマシテ、質疑應答ヲ重

ネマシタ、是ヨリ議案ノ大要ト質疑應答ノ

萬圓、歲出一千百八十餘萬圓デアリマシテ、

差引歳入不足額千五百六十萬餘圓トナシテ

、昭和十二年度豫算實丁止丁ニマシタ歲

出節約ニ依ル財源餘裕額ノ中ヨリ充當スル

右歲方預算案内

森林收入ノ增加二十餘萬圓、專賣局
益金ノ增加百十餘萬圓、刑務所收入ノ增加

月十六日ノ帝國政府ノ重大聲明ニ依リ、作戦モ第二期ノ段階ニ入り、長期作戦ノ下ニ錯綜セル國際關係ニ處シ、克ク第三國ノ干渉策謀ヲ未發ニ制シ、以テ毅然トシテ帝國出帥ノ目的ヲ貫徹スル爲ニハ、直接當面ノ戰力ヲ維持強化シテ、作戦遂行ニ遺憾ナカラシムルハ勿論益々右作戦ヲ推進スペキ諸般ノ準備ヲ爲シ置クノ要、緊切ナルモノアリト考フルノデアリマスト申述ベラレ、今回ノ豫算ノ内容ヲ次ノ如ク列舉致サレマシタ、一、遣外部隊竝ニ之ニ應ズル内地補充留守部隊等ノ概ネ一箇年分ノ一般維持費、竝ニ戰爭遂行ニ必要ナル人馬、兵器、彈藥等ノ消耗補充ニ要スル經費、二、事變ノ長期的態勢ニ應ズル爲、戰力ノ強化、竝ニ之ニ伴フ一部遣外部隊ノ交代整理ヲ行フ爲ノ經費、三、今後ノ作戦ヲ考慮シ、從來非準備ノ儘來リシ作戦資材中、目下ノ狀勢ニ應ジ、緊急不可缺トスルモノノ準備ニ要スル經費、四、航空空要員ノ補充其ノ他航空戰力充實ニ要スル經費、五、還送患者ノ收療施設擴充ニ要スル經費、六、戰傷病死者ニ對スル特別賜金、七、占據地域ニ於ケル主要鐵道ノ新管理經營機關成立迄ノ復舊、管理、運營ニ關スル經費、八、造兵設備ノ增强及戰備材料整備ニ要スル經費、又海軍大臣ヘ、今回ノ豫算ニ關スル經費ニ付、其ノ内容ノ項目ヲ擧ゲテ、支那各方面ニ派遣ノ艦船、航空隊、陸戰隊、特設部隊等ニ要スル人件費、竝ニ軍需品即チ兵器、弾藥、被服、糧食、需品、燃料、港用品等ノ調達ニ要スル經費、航空、通信、工作

微備船舶費、應召員ニ要スル經費、各種戰時給與、戰死者ニ要スル各種賜金、手當金等デアルト申述ベラマシタ、次ニ昭和十三年度歲入歲出總豫算追加案第一號ハ、次ニ御説明申上ゲル如ク、同特別會計追加案追第一號ト共ニ、臨時軍事費豫算追加案第一號ニ直接關係ヲ有スルモノノミデアリマス、歲入歲出共ニ三億八千六百四十餘萬圓デアリマシテ、右歲入豫算ノ内譯ハ、支那事變特別稅法制定ニ依ル增加二億六千八百六十餘萬圓、臨時利得稅法改正ニ依ル增加三千八百二十餘萬圓、臨時租稅措置法制定ニ依ル減少三百七十餘萬圓、煙草値上等ニ依ル專賣局益金ノ增加千二十餘萬圓、歲入補填ノ財源ニ充ツベキ公債金ノ增加七千三百餘萬圓デアリマス、又歲出豫算ノ内譯基金繰入金ノ增加六千六百二十餘萬圓、ハ臨時的增稅竝ニ負擔輕減ニ關スル臨時的措置ニ伴ヒ要スル經費三百餘萬圓、國債整理萬圓デアリマス、次ニ昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算追加案特第一號ハ、專賣局、國債整理基金、公債金、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及其ノ他陸海軍ノ作業會計等ノ各特別會計ニ關スルモノの措置等ニ伴フ歲入ノ增減、及ビ之ガ徵稅費、並ニ臨時軍事費特別會計ヘ繰入ノ増加

等ニ闢スルモノデアリマス、又各外地特別
會計ノ繰入金ハ、臨時的増稅及煙草ノ値上
ニ依ル歲入ノ增加額ヨリ、徵稅費等ヲ控除
シタルモノノ八割ヲ繰入レムトスルモノデ
アリマシテ、其ノ金額ハ關東局七十餘萬圓、
朝鮮總督府八百九十五餘萬圓、臺灣總督府二
百八十餘萬圓、樺太廳三十餘萬圓、計千二
百二十餘萬圓デアリマス、以上ニ於キマシ
テ計數等ニ闢スル説明ヲ終リマシテ、是ヨ
リ質疑應答ノ大要ヲ申上ゲマス、尙陸海軍
大臣竝ニ外務大臣ヨリ軍事竝ニ外交ノ説明
ガアリマシタガ、是ハ速記錄ニ譲リマスコ
トヲ御承知ヲ願ヒマス、尙祕密會ニ於キマ
シテ陸海軍大臣竝ニ外務大臣ヨリ、詳細説
明ガアリマシタコトヲ御報告申上ゲテ置キ
マス、一委員ヨリ、公債募集ハ十二年度ハ
三十二億圓程度デアッタガ、十三年度ハ七十億
圓ニテ略々倍額トナツタ、即チ一箇月ニ五六億
圓ノ募集トナリマス、是等ノ公債資金ヲ得
ル爲ニハ貯蓄方必要デアル、ソレニハ爲替
水準ノ維持、物資ノ需給ノ調節、消費ノ節
約ガ必要ト思フ、是ハ公債ヲ引受クル經濟
狀態ヲ作ル爲デアル、而シテ公債ノ引受ニ
ハ軍需會社ノ重役、社員、竝ニ一般利潤ア
ル會社ノ重役社員等ニ、強制的ニ適當ノ割
合ニ公債ヲ持タシムルコトガ雙方ノ爲ト思
フガ、其ノ考ナキヤ如何ト云フノニ對シ、
藏相ハ御説ハ御尤デアル、但シ法律上ノ強
制ニ依ツテ持タス考ハナイ、其ノ人々ノ自覺
ニ依リタクト思フ、尙貯蓄ノ獎勵、民間公
債ノ獎勵ハ、近ク追加豫算ニ要求シヨウト

云フコトヲ言ハレマシタ、又日本銀行ノ保証準備ノ擴張セラレムトスル時、通貨ノ節約ノ爲ニ證券、殊ニ小切手ノ使用ヲ獎勵シテハ如何、殊ニ納稅ニ小切手ヲ使ッテハ如何ナルモノカト云フニ對シ、藏相ハ同感ナル旨答ヘラレマシタ、又支那ニ於ケル廣汎ナル新占據地ニ資金工作ヲシテ、日本ヨリモ輸出シ、又其ノ地方ヨリ物資ガ得ラレ、日本支「ブロック」ガ出來ルコトトナレバ、蔣介石ヲ屈服スル所以ト思フ、政府ハ此ノ點ニ關シテ如何ナル方策アルカト云フニ對シ、同ジク藏相ハ、物資ヲ日支ニ輸出入スルコトハ經濟建設上必要デアル、殊ニ支那ニ於ケル棉花、鹽、石炭等ハ最モ有望デアル、要スルニ占據地ノ民衆ノ生活ノ安定ヲナン、交通、鐵道ヲ促進シ、開發會社ヲ起シ、資金ヲ供給シ、日滿ニ惡影響ヲ來タサザル範圍内ニ於テ努力シヨウト答ヘラレマシタ、次ニ爲替管理ノ爲ニ物資ノ需給甚ダシク不足デアル、故ニ内地ニアルモノノ外、外地、滿洲、北支ヨリ入ル、外ナイ、即チ自足自給ノ外ナイガ如クデアル、スクテハ物價騰貴ヲ來スコトトナル、本豫算ニハ多少アルガ、今日ノ追加豫算ニハ生産力擴充増加ノコトハ軍需資財調達ノ爲ト云フ外少シモナシ、此ノ點如何ト云フニ對シ、商相ハ御說御尤デアル、戰時工作機械ノ爲ニ、法律ニテ損失補償ヲシテ獎勵シツ、アル、又豫算外ノ施設トシテ「バルブ」ノ資材ノ爲ニ潤葉樹ヲ拂下ゲル等、諸種ノ施設ヲ爲シツ、アリト答ヘラレマシタ、又物價ノ騰貴ハ供給

ノ伴ハ又爲デアル、生産資財、消費資財ノ騰貴、殊ニ日用品ノ騰貴ハ國民生活ヲ脅カスモノデアル、最近ノ晒木綿、燐寸ノ上騰ハ其ノ甚ダンキモノデアル、政府ノ政策ノ爲ニ斯カル影響ノアルノハ不都合デアル、百貨店其ノ他小賣商ノ自由ニ任セズ、適當ノ取扱ヲ必要トスルノデハナイカト云フニ對シ、商相ハ、軍需品ノ原料等ハ配給ノ統制ヲモ爲サムト思フ、鐵、銅、「バルブ」、「ゴム」等ハ供給少ク、需要多キ故ニ生産、配給、需要者ニ組合ヲ作ラシテ統制シヨウ、併シ價格ヲ決メルニ、網以外ニ脱スルモノアリテ困ルニ依シテ網ヲ細カクシヨウ、又木綿、燐寸等ハナカヽヽ統制困難デアル、是等ハ國內ノ需要ヲ少クスルモノデアレバ、國民モ消費ヲ節約スル外ナイノデアル、物價ヲ公定シテモ陰ガアッテ效果ハナインオデアル、故ニ政府ハ暴利取締法ニ、賣惜貰占メノ外ニ、販賣ノ値段ト數量ヲ届ケシムルコトトシテ之ヲ防ギツ、アリト答ヘラレマシタ、又陸海軍ニテ多數ノ豫算ヲ放出シテ物ヲ買フニ當リテ、連絡ナキ爲物價高クナリ又整ハナイ、共同購買局ヲ作り、商工省デヤリテハ如何ト云フニ對シ、商相ハ、陸海軍ハ其ノ特殊ノモノハ別ニスルモ、商工省ニ於テハ、其ノ他ノ方面ハ陸海軍ト協力シテ物、價、配給ノ調節ヲシタイト思フ、此ノ議會ニ臨時物資調整局ノ如キモノヲ要求セムト思フ、要スルニ今日ノ商工省ノ機關ハ不十分デアルト答ラヘレマシタ、又貿易ハ本年二月末ノ統計ニ依レバ、輸出入減ニテ入超

ノ減ハ大イニ寒心ニ堪ヘナイ、是ハ貿易管
理ノ不當ナル爲ノ如クデアル、此ノ追加豫
算ニモ貿易振興ノ費目ガナイ、政府ノ將來
ノ對策如何ト云フニ對シ、同ジク商相ハ、
御尤ノコトデアルガ、外國商人ガ昨年ハ物
價高ヲ見込ンデ輸入セルモノガアツテ、其ノ
滯貨ガアルコトト、米國ノ不景氣、農作物
ノ不作、印度ノ綿業ノ發達等ノ爲滅退シタ
ノデアル、將來ノ爲替管理ハ能ク善處シヨウ
ト答ヘラレマシタ、其ノ他物價、消費ノ統
制及事變後ノ反動等ニ付キマシテ質疑應答
ガアリマシタ、次ニ巨額ノ公債消化ニ付、
貯蓄ノ獎勵ヲスルガ宜イ、軍需產業者ヨリ
其ノ利潤ヲ消費セズシテ、貯蓄シテ公債ニ
振向ケル必要ガアルト思フ、又銀行、信託、
保險等ニテハ、信用アルモノハ其ノ固有財
産ヲ公債ニ向ケシムルヲ必要トスルト云フ
質疑ニ對シ、藏相ハ、貯蓄ノ獎勵ハ御同感
デアル、戰費ノ放出ニ依リテ増加シタ預金、
信託金等ハ公債等ニ振向ケタキモノデアル、
但シ法律ノ根據ニテ強制セムトハ思ハナイ、
自由ニ株券、社債其ノ他ニ放資サセル積リ
デアルト答ヘラレマシタ、又郵便貯金ヲ大
イニ獎勵スル必要ガアル、二千圓限度ヲ三
千圓限度ニ引上グル時期ニ達シテ居ルト思
フ、獎勵ノ方法ハ通帳ニテ納稅スルガ宜イ、
購買組合ニテモ通帳ニテ決済スルガ宜イ、
又郵便貯金ヲ日歩計算ニスル必要ガアル、
小切手ノ納入ヲ許ス必要アリト思フ、振替
貯金ノ引上モ必要デアル、是ハ通貨膨脹ノ

ニ對シマシテ、遞信當局ハ、貯金獎勵ハ御同感デアル、是ハ講演ヤ「ボスター」等ニ依ツテ獎勵シテ居ル、國民總動員ニテモヤッテ居ル、振替貯金ニハ小切手納入ヲ許スガ、貯金ニハ用ヒテ居ラナイ、日歩計算ハ事務的ニ困難デアル、振替貯金ハ支局ヲ新設シ、電信ニテ早ク出入ノ出來ルヤウニシテ居ル、貯金通帳ニテ納稅スルコトハ考慮セムト答ヘラレマシタ、次ニ大藏大臣ハ一員ノ要求ニ應ゼラレマシテ、支那法幣ノコトニ付キ左ノ如ク演述セラレマシタ、即チ北支ハ中國銀行其ノ他ノ法幣流通シテ居ルガ、蔣介石ノ勢力ニ依ル貨幣ノ流通スルノハ面白クナク、又朝鮮銀行券ヲ多分ニ流通スルモノ不可デアルカラ、北支新政權ガ出來タノヲ好機トシテ、新發券銀行即チ中國聯合準備銀行ヲ作り、支那各銀行ニ參加サセ、又資本ノ半額千五百萬圓ヲ我ガ國ニテ引受ケテ、興業、正金、朝鮮ノ三銀行ニテ融通セシメテ居ル、而シテ漸次新券ニテ舊來ノ法幣ヲ引上ゲル積リデアル、發券高ハ三億圓位ノ積リデアルガ、將來ハ増加スルコト思フ、準備ハ大體銀ニテ六千萬圓程保有シテ居ル、圓ニ「リンク」サス積リデアル、後ニハ金圓ト「パーントナルト思フ、併シ北支ハ日滿ノ如ク貿易管理ナキ故ニ、日滿ノヤウニハ旨ク行カヌノデアル、要ハ國際收支ヲ良クスマ面ハ餘程宜ク蒙疆銀行ガ活躍シテ居ルトノ

日本豫算審議ノ節、一員ヨリ憲法ト國體トノ關係ニ關スル質問ニ對シ、此ノ委員會ニテ答辯ガアリマシタ、是ハ諸君御承知ノコトト存ジマスガ、大切ナコトデアリマスルカラ速記録ニ載セル意味デ御報告申上ゲマス、首相ノ答辯ハ次ノ通りデアリマス、即チ帝國憲法ハ申ス迄モナク萬古不易ノ我ガ國體ヲ昭示シ給フト共ニ、此ノ萬邦無比ナル國體ヲ基礎トシテ、統治權行使ノ形式態様ヲ定メラレタノデアリマシテ、我ガ尊嚴ナル國體ハ、帝國憲法ノ條章ノ間ニ躍如トシテ顯現シテ居ルノデアリマス、從^ツテ實際政治ハ、帝國憲法ノ條章ヲ基準トすべク、臣民ハ帝國憲法ノ條章ヲ循行スベキハヨリ當然デアリマシテ、是ガ我方國體ノ本義スルニ當リテハ、帝國憲法御制定ノ根本精神ノ在ル所ヲ十分ニ會得シ、國體ノ本義ヲ通リデアリマス、併シナガラ帝國憲法ヲ解説ルコトナキヲ期セネバナラヌコト亦言ヲ俟タヌ所デアリマス、又政教其ノ他百般ノ事項、總テ萬邦無比ナル我ガ國體ノ本義ヲ基トシテ、愈々其ノ眞髓ヲ顯揚シナケレバナラヌコトハ、昭和十年岡田内閣ガ再度ノ聲明ヲ爲シテ、國民ノ向フベキ所ヲ明カニシタ通リデアリマスト答ヘラレマシタ、之ニカトカラ討論ニ入りマシタ處、三人ノ委員ヨリ贊成意見ヲ陳述セラレマシタ、次ニ其ノ

算ニ對シマシテ、前述ノ陸海軍大臣ノ説明ノ主旨ニ贊意ヲ表シ、又十二年度ノ陸海軍マシテ、其ノ延長タル事變豫算ガ不脅威不侵略ノ性質ノモノデアリ、且ツ自然ノ成行デアルコトヲ力説セラレマシタ、尙軍事費ノ放出ガ一箇年五十億圓ニモナルコトデアルカラ、經濟的ニ至大ノ影響ノナイヤウニ注意セラレ、國際貸借ノ惡化、惡性「インフレ」乃至物價昂騰ナキヤウ、對處策ヲ講ゼラレタシトテ贊成ヲ表セラレ、他ノ追加豫算案ニモ贊成ノ意ヲ述べラレマシタ、次ニ委員ハ、此ノ豫算、特ニ軍事豫算ニ對シマシテ贊意ヲ表スルト共ニ、此ノ豫算ノ遂行ニ、國策ノ遺憾ナクシテ、國運ノ隆昌ナラムコトヲ希望スルト前提セラレマシテ、我ガ力ニ依リテ建設セラルベキ親日防共ノ第一、時局解決ノ鍵鑰ナル蔣政權ノ打倒、其ノ兵力ノ殲滅、第二、我功用兵ノ結果、戰後ノ政策等ヲ十分ニ完成セラル、コトヲ他ノ一委員ハ滿洲事變ト支那事變トヘ大ニ切望スル旨ヲ陳述セラレマシタ、殊ニ第三ニ付キマシテ、殖產工業ニ速力ニ著手すべキコトヲ力説セラレタノデアリマス、次ニル將士ノ奮鬥ニ依リマシテ今日ノ戰果ヲ收メ、又將來モ益、國威ヲ宣揚スルコトト思

フガ、軍事ト共ニ大ニ「シビル」工作、即チ
文化工作ガ必要ト思フ、故ニ大藏、遞信、
商工、鐵道、外務其ノ他文化方面ノ進出ガ
必要デアル、國家トシテ總テ協力シテ十分
ノ戰果ヲ收メラル、コトヲ望ムト陳述セラ
レマシタ、殊ニ軍事豫算ニ贊意ヲ表サレマ
シタ、斯様ニ致シマシテ討論ガ終結セラレ
マシタ、仍テ贊否ヲ起立ニ問ヒマシタ處、
全員起立、豫算追加案六案トモ原案通り全
會一致可決致サレマシタ、右御報告申上ゲ
マス

國ノ領土以上ニ達シテ居リマス、斯クテ彌
ガ上ニ日本帝國ノ武威ヲ發揚シタノデアリ
マス、又我ガ海軍今回ノ上海戰ニ於ケル當
初ノ陸戰隊ハ、必然的ニ其ノ數ハ極メテ少
數ナリシニ拘ラズ、善戦能ク敵ノ大兵ノ進
出ヲ阻止シ得テ、後續部隊ノ上陸ヲ可能ナ
ラシメ、之ニ參戰ノ機會ヲ與ヘタ、加之其
ノ空軍ハ旬日ナラズシテ敵ニ甚大ナル損害
ヲ與ヘ、一舉其ノ制空權ヲ獲得シテ、我ガ
軍事行動ヲシテ愈、活潑容易ナラシメマシタ、
是ハ眞ニ不滅ノ功勳デナケレバナリマセ
ヌ、又山東ヨリ廣東ニ至ル沿岸ノ全長ハ實
ニ三千「キロメートル」ニ至ルノデアリマス、
我ガ海軍ハ敢然此ノ封鎖ヲ斷行致シマシ
タ、時恰モ季節風ニ際シ、怒濤狂湧、艦内
ノ生活ハ決シテ容易ノ業デハアリマセヌ、
我ガ將兵ハ晝夜兼行、身心ヲ碎イテ國家ノ
爲完全ニ其ノ責務ヲ盡シツツアルノデアリ
マス、實ニ我々銃後ノ國民ノ感激措ク能ハ
ザル所デアリマス、私ハ此ノ機會ニ於テ貴
族院議員ノ一人トシテ、我ガ陸海軍將兵ニ
對シ、深甚ナル敬意ト感謝ノ意ヲ表セムト
致スモノデアリマス、上述ノ如ク皇軍ハ戰
筆其ノモノニ付テハ實ニ遺憾ナキ發展ヲ遂
ゲ、大々的效果ヲ收メテ居ルノデアリマス、
併シナガラ今回皇軍出動ノ眞目的ハ、單ニ敵
軍ヲ勦滅シ、軍閥膺懲ノ實ヲ擧グレバ即チ
足ルト云フ如キ簡単ナルモノデハナイノデ
アリマス、遙カニ高遠ナル理想、東洋永遠
ノ平和ノ基礎ノ確立、是ガ出師窮極ノ目的
デ、且國民上下ノ理想デアルノデアリマス、

從ッテ萬一二ミモ中道ニ於テ挫折シ、目的ノ達成ガ不能ト云フガ如キコトニデモナツカラ、必ズヤ我々ノ苗裔ハ、我々現代人ヲ目シテ無意義ナ戰役ニ幾十億ノ國帑ヲ濫用シタ先人ダトナシ、深ク怨嗟シテ已マザルコトデアリマセウ、故ニ我々ハ此ノ目的貫徹ノ爲毅然トシテ邁進スベキデアリマスガ、抑此ノ事業タルヤ世界歴史ニ新時期ヲ作ル程度ノ大命題デ、其ノ達成ハナカノ、容易ノ業デハアリマセヌ、ソレハ今回武士道國日本ノ執ツタ軍事行動以上ノ聰明ト、忍耐ト、努力トヲ要求サレル次第デアルト確信致シマス、日本近代史上最モ重大ナル事件トシテハ、内ニ於テハ維新ノ變革、對外關係トシテハ日露ノ戰役デアルト思フノデアリマス、對内問題トシテノ維新ノ變革ガ、如何ナル狀態ニ迄國內ヲ鼎沸セシメタルカ、又如何ニ外夷ノ跳梁跋扈ニ困惑シタカ、實ニ想像以上ノコトデアツタノデアリマス、日露戰役ハ幸ニ我ガ國ノ勝利ニ歸シ、舊年日本ハ之ニ依ッテ辛ウジテ西力東漸ノ大勢ヲ阻止スルコトヲ得タ、併シ此ノ戰役ハ眞ニ國運ヲ賭シタ戰爭デアツタノデアリマス、サウシテ私ハ茲ニ日露戰爭ト今回ノ事變トヲ比較シ、主觀的ニ觀察シテ見マスルニ、前者即チ日露戰爭ノ方ガ、其ノ複雜性ニ於テ著シク簡單デアツタ思フノデアリマス、何トナレバ同役ハ、露軍ヲ滿洲ノタル蒋介石及ビ其ノ軍閥ノ擊破討滅ニアル

コトハ勿論デアリマスガ、此ノ間我ガ國ハ常ニ北方ヨリスル力強イ壓力ニ對シ、終始準備工作ニ從ハネバナラナイ、又我々ハ對支戰鬪ニ邁進スル一面ニ於テ、其ノ最終目的達成ノ過程トシテ、複雜多端ナル和平工作ヲモ實行セネバナラナイノデアリマス、以テ禹域ニ於テ我々ガ當面セル問題ノ如何ニ複雜デアリ困難デアルカガ想像サレルノデアリマス、東洋ノ盟主日本ハ、再ビ建國以來ノ大業ヲ成就スベク、今ヤ陣痛上ノ惱ヲ體驗シツ、アルノデアリマス、皇國ノ安危興亡ガニ此ノ成否如何ニ懸シテ居ルノデアリマス、政府ハ茲ニ見ル所アリ、國民ニ對シ精神總動員ヲ望シテ居リマス、時局ハ頗ル重大デアリマス、苟モ生ラ日本ニ享ケタル限リ文武官民、老若男女ヲ問ハズ、總テガ皇國ニ殉ズル決意ヲ以テ同心戮力、國事ニ力メ民衆ヲ勵マネバラス大切ニ秋デアルト信ジマス、併シ讐シテ見ルニ、國家ノ現狀ハ果シテ斯カル情勢ヲ馴致シツ、アルカ、相剋的狀態ハ既ニ解消セラレタノデアルカ、官吏間ノ相剋問題ニ付テハ、官吏ガ從フ所ノ政務ニ勤勉ナル結果デアルト云ル解説モアリマス、併シ是ハ政務ヲ平面的ニ觀察シタ說議デアリマス、立體的ニ生起スル相剋ハ内容極メテ深刻デ、到底平面的ナル解説モアリマス、而シテ此ノ相違セルヌ、然ラバ何ヲカ立體的ノ相剋ト言フカ、觀念ガ互ニ交錯シ接觸シタ場合ノ關係ハ、

甚ダ複雜シタ形相ヲ呈スルノデアリマス、
先日、本議場デ某閣僚ト某有力議員トノ間
ニ、所有權ノ性質ニ關スル論議ガ開ハサレ
マシタ、後者ハ所有權ヘ憲法ノ確保スル所
ノ私權デアル、前者ハ國家ノ利益ハ當然私
人ノ利益ニ優先スルト主張サレタノデアリ
マス、是ハ明カニ觀念上ノ大イナル相違カ
ラ生ジタ議論デアリマス、而シテ窃ニ思フ
ニ、斯クノ如キ相違撞著ハ國內到ル所ニ充
満シテ居ルコトデハナイデアラウカ、斯ク
テドウシテ相剋ナキヲ得ルカ、亦相剋ナキ
ヲ期待シ得ベキカ、怪ムベキノ至デアリマ
ス、私ハ既述ノ兩説中何レガ是カ、何レガ
非ナルカラ論及セムトスル者デハアリマセ
ヌ、併シ非常時國家ノ國務ヲ擔當スル廟堂
諸公ニハ、自ラ國民ヲシテ其ノ嚮フ所ヲ知
ラシムベキ大責ガアリマス、即チ政府ハ宣
シク國民ニ對シテ其ノ指導精神ヲ明示シ、
之ヲ鼓吹シ、徹底セシムベキデアリマス、
苟モ此ノ大事業ヲ前ニシテ、國內ニ上述ノ
如キ觀念上ノ相剋ガアリ得ルトスレバ、折
角政府ニ於テ宣傳セル國民精神總動員モ、
到底其ノ目的ヲ達スルコトガ出來ズ、遂ニ
ハ皇軍出動ノ大理想ヲモ忘却シ、赫々タル
軍事行動モ或ハ窮極ニ於テ徒勞ニ歸スルヤ
ウナ憂ガ全ク無シトハ斷言シ難イノデアリ
マス、政府ハ須ク想ヲ茲ニ致シ、善處セラ
レムコトヲ切望スル次第デアリマス、叔昨
年私ハ二十餘億ノ軍事費ヲ協賛スルニ當リ、
此ノ壇上ヨリ皇軍奮起ノ理由ヲ述べ、支那

ノ覺醒ヲ促シタノアリマス、然ルニ蔣介石ハ遂ニ日本ノ眞意ヲ解スル能ハズシテ、首都ノ陷落スルヤ邊境重慶ニ逃レ、半バ共産黨ノ捕虜トナツテ、儻ナキ長期抗戦ヲ豪語シ、國民ノ利害休戚ニ付テハ全ク顧慮スル所ガナイ、其ノ愚ヤ及ブベカラズデ、其ノ殘忍性ハ眞ニ唾棄スペキデアリマセウ、斯クテ我ガ政府ハ彼蔣介石ヲ否認シ、爾後一箇ノ政權トシテ取扱ハザル旨ヲ堂々天下ニ聲明スルニ至リマシタ、自然ノ情勢デアリマス、支那ハ世界ニ最モ古イ國ノ一ツデアリ、其ノ長キ歴史ノ中ニハ、其ノ名ヲ史上ニ留メタ英雄ガ多數輩出シテ居ルノデアリマス、併シ近代ノ支那ニハ人材ガ生レナイ、其ノ中ニ強ヒテ求ムルナラバ僅カニ指ヲ例ノ革命ノ師父孫逸仙及び其ノ弟子蔣介石ニ届スルデアリマセウ、孫文ノ三民主義ノ失敗ハ既ニ周知ノ事實デアリマス、蔣介石ハ其ノ後ヲ承ケ、事實上南京政府ノ首班トナリマシタ、併シ彼ハ崇高ナル傳統文化ノ偉大性ニ盲目デアリ、國繁ヲ摘抉スルダケノ聰明ト勇斷ニ缺ケテ居ツタ、彼ハ歐米ノ物質文明ニ陶醉シ、其ノ奴隸ヲ以テ終始シマシタ、尤モ彼蔣介石ヲシテ斯ク迄似而非の人物タラシムル主要原因トシテハ、我々ハ其ノ妻宋美齡一派ノ感化ヲ度外視スル譯ニハ參リマセヌ、支那ノ現在ノ上流社會ニハ、美齡型ノ人物ガ極メテ多數デアリマス、彼等ハ幼少ノ頃カラ歐米ニ育チ、歐米ノ教育ヲ受ケタ者デ、彼等ヲ以テ我々ガ道徳上ノ基礎ヲ共ニスル隣人ダトシテ、之

アリマス、事實彼等ノ中ニハ同僚相互間ニ接近セムトスルコトハ實ハ大ナル誤リ。於ケル日常ノ對話ニ英語ヲ使用スル者ガ多數アルノデアリマス、即チ彼等ハ皮膚ノ色ニ於テノミ我々ニ似テ居ルガ、其ノ思想ハ全ク歐米人デ、祖先ノ創造シタ精神文化ノ高峰「仁」ノ何タルサヘ理解シナイノデアリマス、即チ彼等ハ決シテ我々ノ考ヘテ居ル支那人デハナイノデアリマス、是等所謂歐米派政客、或ハ歐米耽溺青年者流ノ政治觀念ハ、當然歐米人ノ世界觀カラ出發シテ居リマス、其ノ歐米人ノ世界觀ハ勿論白人文明ヲ以テ文明ノ嫡流トスルモノデ、彼等ノ目ニ映ズル東洋ハ、自己ノ文明ヲ培養スペキ材料及勞働力以外ノ何モノデモナイ、從ツテ斯カル世界觀ノ上ニ立ツタ所ノ國際觀念ハ、東洋人トシテノ我々ハ正シキ價値ノ顛倒サレタ不當至極ノモノデアリマス、併シ歐米デ教育ヲ受ケタ彼等ハ、之ニ對スル批判能力ヲ持タナイ、是ガ從來日支親善ニ對スル變ヲ招來シタ、實ニ慨嘆ニ堪ヘナイ次第デアリマス、ガ併シ今日支那ニモ尙支那古來ノ教義ヲ以テ、其ノ思想的基礎トナス者ガ少クナイ上ニ、日本留學生中ニハ、現ニ相當有力ナル者ガアリマス、彼等ハ曾テハ概ネ革命ノ先驅者デアッタ、サレバ今日以後我我ガ支那ニ働き掛けル場合ハ、斷然是等ノ了解セシメネバナラヌ重要ナ階級デアリマス

シテ、其ノ複雜性ヲ略述致シマシタガ、「ソ」聯
以外ノ外國關係ニ於テ觀マスルニ、日露戰
爭當時トハ月龍ノ差ガ存スルノデアリマス、
即チ日露戰爭當時ハ英米初メ歐洲ノ諸國ハ
概ネ日本ニ對シ滿腔ノ同情ヲ寄セテ居リマ
シタ、今日ハ之ニ反シ獨伊以外ノ全部ガ支
那側ニ走ツテ居リマス、是ニハ政治上、經濟
上又ハ國防上、廣汎ニ瓦ル重疊シタ理由モ
アルデアリマセウ、併シ現在日本ノ支那事
變ニ對シテ懷ク眞意ガ、英米其ノ他ニ理解
セラレテ居ラスコトハ事實デアリマス、少
クトモ英米二國ノ大衆ニハ理解サレテ居リ
マセヌ、是ハ日本ノ爲ニ大イニ不利益デア
リマス、蓋シ英米政府ハ人民ノ意思ニ反シ
タ政治行動ハ執ラヌ主義ノ國家デアルカラ
デアリマス、支那事變勃發以來、英米ノ我
ニ對スル非難ノ聲ガ漸ク熾烈ヲ極メルニ
至ツテ、國民使節ナルモノヲ派遣シテ、日本
ノ眞意ヲ説明シ、其ノ諒解ヲ得ルコトヲ努
メタノデアリマスガ、是ハ到底大ナル效果
ヲ擧ゲ得タトハ思ヘマセヌ、軍事行動ニ關
スル限り、皇軍ノ威力ヲ以テスレバ四河雲
南ノ邊境ト雖モ、之ヲ討伐スルコトハ必ズ
シモ不可能デハナイノデアリマセウガ、併
シ事變終熄後ニ於ケル支那ノ和平工作ハ、
ドウシテモ歐米ノ完全ナ諒解ナシニハ望
ミ得ナイト思ハレルノデアリマス、和平
工作ノ第一ハ、大衆ヲ從來ノ地方軍閥ノ青
銃謀求ヨリ救濟スルニアリマス、聞ク所ニ
依レバ二十年先ノ稅金ヲ徵收シテ居ル所サ

テ、引續キ其ノ期間ヲ三箇年間延長シ、本年九月末ヲ以テ終了スルコトトナッテ居ルノデアリマシテ、本法ニ依ル資金融通高ハ昭和十二年迄ニ累計五千百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマスガ、銀行ノ不動產固定資金ノ情況ニ鑑ミ、又事變ノ際デモアリマスノデ、本施設ハ之ヲ存續致スコトガ適當ナリトセラレマシテ、其ノ期間ヲ更ニ三箇年延長セムトスルモノデアリマス、尙本法ニ依ル資金ノ融通期限ハ本法施行ノ日ヨリ十五箇年以内トアリマス、今回融通期間ヲ更ニ延長致シマスル時ハ、現在ノ儘デハ不動產資金ノ融通期限トシテハ短キニ失シマスノデ、融通期間ト同様三箇年ヲ延長致シマシテ、十五箇年以内トセラレテアルヲ十八箇年以内ト改メラレマシタル點デアリマス、次ニ産業組合中央金庫法中改正法律案、農林省所管デアリマス、此ノ改正要點ヲ申上ゲマスレバ、一ハ、漁業組合聯合會及漁業協同組合ヲ産業組合中央金庫ニ加入セシメ得改正法律案ノ重要ナ點デアリマシテ、之ノルコトシタ點デアリマス、是ハ最モ此ノノ資本金ヲ五百萬圓增加スルコトト爲シタル點デアリマス、内二百五十萬圓ヲ限り政務大臣ノ認可ヲ得テ定メシメ、其ノ期間内ノ資本金ヲ現在二十名以内トアルヲ三十名以内ト改メマシタ點デアリマス、四ハ、産業組合中央金庫ノ年賦償還貸付額ノ制限、即

ノ二分ノーラ超ユルコトヲ得ズトアルヲ、

産業組合中央金庫ガ政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テハ、之ヲ適用セザルコトト爲シタル點デアリマス、五ハ、産業組合中央金庫ノ餘裕金ノ運用ヲ便ナラシムル爲、其ノ運用方法ヲ擴張シ、現在ハ國債證券地方債證券ノ買入ノミ出來ザリシヲ、更ニ進ンデ之ガ應募又ハ引受ヲ爲シ得ルコトトナシ、及び産業組合聯合會ノ發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ行フ法人ニ對シ、主務大臣ノ認可ヲ得テ短期貸付ヲ爲スコトヲ得トナシタル點デアリマス、六ハ、産業組合中央金庫ノ事業年度ハ、現在ハ六箇月トナツテ居ルノヲ、組合金融ノ近狀ヨリ見マシテモ、又一般產業組合ノ事業年度トノ關係上モ、金庫ノ事業年度ハ、産業組合ノ例ト準ズルコトガ適當ト認メラレ、從來ノ規定ヲ削除シ、産業組合法ヲ準用スルコトナシタル點デアリマス、是ハ産業組合中央金庫法第二十三條ノ削除デアリマス、七ハ、産業組合中央金庫ノ事業年度ヲ一年又ハ六箇月ト致シマシタガ、貸付金利子最高歩合ハ必ズ六箇月毎ニ定メルコトガ必要デアルト認メラレ、從來毎年度ノ初ニ於テ定ムル規定デアリマシテガ、貨付金利子最高歩合ハ必ズ六箇月毎ニ定メルコトガ必要デアルト認メラレ、從來毎年度ノ初ニ於テ定ムル規定デアリマシテ、全國ノ信用組合ノ實情ハ尙相當ノ固定債權ガアリマスルノデ、之ヲ更ニ三箇年延長セラレタノデアリマスルガ、本年九月末ヲ以テ終了スルコトト相成ルノデアリマシテ、全國ノ信用組合ノ實情ハ尙相當ノ固定債權ガアリマスルノデ、之ヲ更ニ三箇年延長スルコトトシテ、今日ノ事變下ニ於テ、組合金融ノ疏通ヲ圖ル必要ヲ認メラレテ、此ノ改正ヲ行フコトト相成ツタノデアリマス、最後ニ産業組合自治監査法案ニ付テデアリマス、本案ハ裏ニ第七十回帝國議會ニ提出セラレ、貴族院ニ於テハ可決セラレタノデアリマシテ、當時衆議院ニ

チ現行法ノ拂込出資金及産業債券ノ發行額ノ二分ノーラ超ユルコトヲ得ズトアルヲ、

産業組合中央金庫ガ政府資金ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テハ、之ヲ適用セザルコトト爲シタル點デアリマス、五ハ、産業組合中央金庫ノ餘裕金ノ運用方法ヲ擴張シ、現在ハ國債證券地方債證券ノ買入ノミ出來ザリシヲ、更ニ進ンデ之ガ應募又ハ引受ヲ爲シ得ルコトトナシ、及び産業組合聯合會ノ發達ヲ圖ル爲必要ナル施設ヲ行フ法人ニ對シ、主務大臣ノ認可ヲ得テ短期貸付ヲ爲スコトヲ得トナシタル點デアリマス、六ハ、産業組合中央金庫ノ事業年度ハ、現在ハ六箇月トナツテ居ルノヲ、組合金融ノ近狀ヨリ見マシテモ、又一般產業組合ノ事業年度トノ關係上モ、金庫ノ事業年度ハ、産業組合ノ例ト準ズルコトガ適當ト認メラレ、從來ノ規定ヲ削除シ、産業組合法ヲ準用スルコトナシタル點デアリマス、次ニ漁業法中之ヲ適用スル點デアリマス、次ニ漁業法中タル政府ノ出資二百五十萬圓ニ對シテ同様同組合ニ對シ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ認メ、併セテ加入豫約貯金、家族貯金ノ受入ヲ爲スコトヲ認メ、又漁業組合ノ屬組合又ハ所屬聯合會ノ貯金ノ受入ヲ爲スコトヲ認メタル點デアリマス、一ハ、漁業協同組合ニ對シ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ認メ、併セテ加入豫約貯金、家族貯金ノ受入ヲ爲スコトヲ認メ、又漁業組合ノ系統機關デアル漁業組合聯合會ニ對シ、所屬組合又ハ所屬聯合會ノ貯金ノ受入ヲ爲スコトヲ認メタル點デアリマス、二ハ、日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行又ハ産業組合中央金庫ガ漁業組合及漁業組合聯合會ニ對シ資金ノ供給ヲ爲スニ際シ、自己ノ信用ノミニテハ資金借入不可能ノ場合ハ、漁業組合聯合會ヲシテ保證ヲ爲スコトヲ得シメ、資金供給ノ圓滑ヲ圖ラムトスルコトガ增加シテ參ツタノデ、漁業組合聯合會ガ所屬組合又ハ聯合會ニ對シテ手形ノ割引

ヲ爲スコトヲ認メ、代金決済ヲ速カナラシメ、且圓滑ヲ圖ルコトシタル點デアリマス、次ハ産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案ニ付テデアリマス、本法ハ昭和七年十月一日施行セラレタモノデノ配當ヲ政府ノ出資ニ對シ爲サムトスルコトハ妥當デナク、且又産業組合中央金庫ノ基礎ヲ鞏固ナラシムモノデナインデ、其ノ間區別ヲ設ケテ、政府以外ノ者ノ出資ニ對スル配當ガ一定率以下ナル場合ハ、政府ノ出資ニ對スル配當ヲ制限スルコトナシタル點デアリマシタノデ、産業組合中央金庫ヲシスル信用組合聯合會ノ貸付金ガ、甚ダシクアリマシテ、當時經濟界ノ不況ノ爲、農村金融機關トシテ重要ナル地位ヲ占メテ居リマスル配當ガ一定率以下ナル場合ハ、政府ノ間區別ヲ設ケテ、政府以外ノ者ノ出資ニ對スル配當ガ一定率以下ナル場合ハ、政府ノ出資ニ對スル配當ヲ制限スルコトナシタル點デアリマス、而シテ此ノ度増加シマシタル政府ノ出資二百五十萬圓ニ對シテ同様改正法律案ニ付テデアリマス、一ハ、漁業協同組合ニ對シ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ認メ、併セテ加入豫約貯金、家族貯金ノ途ヲ開ク目的デ制定セラレタモノデ聯合會又ハ所屬信用組合ニ對シ特別融通ヲ爲サシメ、其ノ固定セル債權ヲ資金化シテ、金融ノ途ヲ開ク目的デ制定セラレタモノデアリマス、而シテ昭和七年十月一日ヨリ昭和十二年十二月末ニ至ル迄ノ間ニ、中央金庫カラ信用組合及信用組合聯合會ニ貸付ケラレマシタル金額ハ五千七十萬圓餘ニ達シテ居リ、本法ニ依ル特別融通期間ハ、昭和十年ノ法律改正ニ依リ、三箇年ヨリ六箇年ニ延長セラレタノデアリマスルガ、本年九月末ヲ以テ終了スルコトト相成ルノデアリマシテ、全國ノ信用組合ノ實情ハ尙相當ノ固定債權ガアリマスルノデ、之ヲ更ニ三箇年延長スルコトトシテ、今日ノ事變下ニ於テ、組合金融ノ疏通ヲ圖ル必要ヲ認メラレテ、此ノ改正ヲ行フコトト相成ツタノデアリマス、最後ニ産業組合自治監査法案ニ付テデアリマス、本案ハ裏ニ第七十回帝國議會ニ提出セラレ、貴族院ニ於テハ可決セラレタノデアリマシテ、當時衆議院ニ

付託中解散トナリマシタノデ、不成立
ニ終ツタモノト全ク同様ノモノデアリマス
ルカラ、茲ニ其ノ内容ノ説明ハ省略致サ
セテ戴キマス、質疑ノ主ナルモノヲ御紹
介申上ゲマス、不動産融資及損失補償
法中改正法律案ニ對シ、一委員ヨリ、右ニ
付テノ今日迄ノ成績並ニ實況等ハ如何ニ相成ッ
テ居ルカトノ御問ニ對シ、政府ハ、此法案制
定當時、即チ昭和七年頃ハ、經濟界ガ相當不
況デアツテ、農村、漁村等モ相當疲弊困憊ヲ
シテ居タノデ、銀行方面ニモ相當ノ不動產
固定資金ガアツタガ、其ノ後情況ハ漸次好調
ヲ示シテ參ツタノデ、資金トシテハ約五千萬
圓位シカ出テ居ラヌ、又損失補償法ハ今日
迄一度モ行ツタコトガナイトノ御答辯デア
リマシタ、農林省所管ノ產業組合中央金庫
ガ、産業ニ對シマシテハ、世界的ニ輸出サ
レテ居ルガ、此ノ度更ニ満洲方面ニ進出シ
タノデアリマス、一委員ヨリ、漁業組合ノ
ミノ中央金庫ノ設置ヲ政府へ考ヘテ居ラヌ
カトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、是ハ今
日迄度々問題トナツタノデアリマスルガ、目
下ノ所デハ、產業組合中央金庫ニ加入セシ
ムルコトヲ適當ト認メタノデアル、又是ハ
多額ノ經費ヲ要スルノデアルカラ、只今ノ
處其ノ考ハ持ツテ居ラヌトノ意味ノ御答辯
デアリマシタ、又一委員ヨリ、之ニ關聯シ
テ、從來餘リ顧ミラレナカッタ所ノ漁業方面
ニ對シ、今回ノ改正法律案ハ誠ニ結構デア
ルト思フガ、政府へ更ニ北洋、南洋方面ノ
漁業等ニ、進ンデ其ノ發展ヲ期スル考ガア

ルカトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、本法
ノ適用ハ中小漁業組合等ニアルノデアルガ、
勿論大資本ヲ要スル所ノ漁業ニ付テハ、別
ニ之ガ助成發達ヲ期シタイト考ヘテ居ルト
云フ意味ノ御答辯デアリマシタ、又一委員
ヨリ、水產物ノ價格ノ統制ヲ缺イテ居ルガ、
政府ハ之ニ付テノ對策ガアルカト云フ御質
問ニアリマシタ、之ニ對シテ農林大臣カラ、
今後漁業組合ノ產業組合中央金庫ヘノ加入
ニ依リマシテ金融ノ途方開カレ、且之ニ依
リマシテ共同販賣、或ハ共同買入等ノ途ガ
開カレルノデアルカラシテ、此ノ點ヲ是正
シテ極力遺憾ナキヲ期スル考デアルトノ御
答辯デアリマシタ、又一委員ヨリ、我ガ國
ノ茶ノ、是ハ主ニ靜岡縣ノコトト存ジマス
ガ、産業ニ對シマシテハ、世界的ニ輸出サ
レテ居ルガ、此ノ度更ニ満洲方面ニ進出シ
タノデアリマス、一委員ヨリ、漁業組合ノ
ミノ中央金庫ノ設置ヲ政府へ考ヘテ居ラヌ
カトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、是ハ今
日迄度々問題トナツタノデアリマスルガ、目
下ノ所デハ、產業組合中央金庫ニ加入セシ
ムルコトヲ適當ト認メタノデアルカラ、只今ノ
處其ノ考ハ持ツテ居ラヌトノ意味ノ御答辯
デアリマシタ、又一委員ヨリ、之ニ關聯シ
テ、從來餘リ顧ミラレナカッタ所ノ漁業方面
ニ對シ、今回ノ改正法律案ハ誠ニ結構デア
ルト思フガ、政府へ更ニ北洋、南洋方面ノ
漁業等ニ、進ンデ其ノ發展ヲ期スル考ガア

ルカトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、本法
ノ適用ハ中小漁業組合等ニアルノデアルガ、
勿論大資本ヲ要スル所ノ漁業ニ付テハ、別
ニ之ガ助成發達ヲ期シタイト考ヘテ居ルト
云フ意味ノ御答辯デアリマシタ、又一委員
ヨリ、水產物ノ價格ノ統制ヲ缺イテ居ルガ、
政府ハ之ニ付テノ對策ガアルカト云フ御質
問ニアリマシタ、之ニ對シテ農林大臣カラ、
今後漁業組合ノ產業組合中央金庫ヘノ加入
ニ依リマシテ金融ノ途方開カレ、且之ニ依
リマシテ共同販賣、或ハ共同買入等ノ途ガ
開カレルノデアルカラシテ、此ノ點ヲ是正
シテ極力遺憾ナキヲ期スル考デアルトノ御
答辯デアリマシタ、又一委員ヨリ、我ガ國
ノ茶ノ、是ハ主ニ靜岡縣ノコトト存ジマス
ガ、産業ニ對シマシテハ、世界的ニ輸出サ
レテ居ルガ、此ノ度更ニ満洲方面ニ進出シ
タノデアリマス、一委員ヨリ、漁業組合ノ
ミノ中央金庫ノ設置ヲ政府へ考ヘテ居ラヌ
カトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、是ハ今
日迄度々問題トナツタノデアリマスルガ、目
下ノ所デハ、產業組合中央金庫ニ加入セシ
ムルコトヲ適當ト認メタノデアルカラ、只今ノ
處其ノ考ハ持ツテ居ラヌトノ意味ノ御答辯
デアリマシタ、又一委員ヨリ、之ニ關聯シ
テ、從來餘リ顧ミラレナカッタ所ノ漁業方面
ニ對シ、今回ノ改正法律案ハ誠ニ結構デア
ルト思フガ、政府へ更ニ北洋、南洋方面ノ
漁業等ニ、進ンデ其ノ發展ヲ期スル考ガア

ルカトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、本法
ノ適用ハ中小漁業組合等ニアルノデアルガ、
勿論大資本ヲ要スル所ノ漁業ニ付テハ、別
ニ之ガ助成發達ヲ期シタイト考ヘテ居ルト
云フ意味ノ御答辯デアリマシタ、又一委員
ヨリ、水產物ノ價格ノ統制ヲ缺イテ居ルガ、
政府ハ之ニ付テノ對策ガアルカト云フ御質
問ニアリマシタ、之ニ對シテ農林大臣カラ、
今後漁業組合ノ產業組合中央金庫ヘノ加入
ニ依リマシテ金融ノ途方開カレ、且之ニ依
リマシテ共同販賣、或ハ共同買入等ノ途ガ
開カレルノデアルカラシテ、此ノ點ヲ是正
シテ極力遺憾ナキヲ期スル考デアルトノ御
答辯デアリマシタ、又一委員ヨリ、我ガ國
ノ茶ノ、是ハ主ニ靜岡縣ノコトト存ジマス
ガ、産業ニ對シマシテハ、世界的ニ輸出サ
レテ居ルガ、此ノ度更ニ満洲方面ニ進出シ
タノデアリマス、一委員ヨリ、漁業組合ノ
ミノ中央金庫ノ設置ヲ政府へ考ヘテ居ラヌ
カトノ御問ニ對シマシテ、政府ハ、是ハ今
日迄度々問題トナツタノデアリマスルガ、目
下ノ所デハ、產業組合中央金庫ニ加入セシ
ムルコトヲ適當ト認メタノデアルカラ、只今ノ
處其ノ考ハ持ツテ居ラヌトノ意味ノ御答辯
デアリマシタ、又一委員ヨリ、之ニ關聯シ
テ、從來餘リ顧ミラレナカッタ所ノ漁業方面
ニ對シ、今回ノ改正法律案ハ誠ニ結構デア
ルト思フガ、政府へ更ニ北洋、南洋方面ノ
漁業等ニ、進ンデ其ノ發展ヲ期スル考ガア

ヲ要約致シマスレバ、社債其ノ他有價證券ノ
引受募集ノ現在ノ情況ニ鑑ミマンテ、其ノ
重要性ヨリ、從來ヘ放任ノ姿デゴザイマンタ
ガ、此ノ法案ニ依リマシテ特ニ免許制度ニ
依ツテ監督ヲ行ヒ、起債界ノ公正ナル仕事
ニ依リマシテ、安全ナル發達ヲシタトイ云
フノガ本案ノ趣旨理由デゴザイマス、先頃
即チ去ル九日本議場デ可決ニナリマシタ有
價證券業取締法ハ、稍、法案ノ名ガ似テ居リ
マスガ、是ハ專ラ産業界ノ發達ニ資スル爲
ニ設ケラレタモノデゴザイマスルノデ、自
ラ其ノ間ニ區別ガゴザイマス、其ノ重要な
モノハ、取締法ノ所管ハ商工省デゴザイ
マスガ、只今議題ニ上ッテ居リマスル法案ハ
大藏省ノ所管ニ相成ル次第デゴザイマス、
委員會ハ先づ説明ヲ受ケマシテ質疑ヲ繼續
致シマシタ、質疑ハ殆ド各條ニ亘ツテ細
カク問答ヲ交ハサレマシタガ、茲ニ御報告
ヲ申シマスルノハ、其ノ中ノ主ナルモノニ
止メタイト思ヒマス、殊ニ法案ノ六條カラ
十九條ニ至リマス二十四箇條ハ、銀行業法、
信託業法、無盡業法等ト大體同一ノ規定デ
アリマシテ、即チ是等ノ引受業者ニ對スル
監督竝ニ罰則ト云フヤウナ規定デゴザイマ
スカラ、是ハ更御報告申ス要ヘナイト考
ヘマス、其ノ他ヲ大體逐條ニ依リマシテ申
ドウ云フ種類デアルカト云フ質問ニ對シマ
シテ、大體國債、地方債、或ハ社債、又追ツ

庶民債券ト云フヤウナモノデアルサウデゴザイマス、從ヒマシテ所謂株券等ニ關スルモノハ、此ノ中カラハ除外サレルノデゴザイマス、此處ニモ矢張リ證券業取締ノ方ハ商工省ニ關係シ、本案ハ大藏省ニ關係スト云フーツノ現レガハツキリ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、次ハ第四條デゴザイマスガ、四條ニヘ引受業者ノ附隨事項ト云フコトガ書イテアルガ、ドウ云フコトデアルカト云フ質問デゴザイマシタ、是ハ當然生ズル事項デアリマスルカラ、例ヘバ代金ノ代理支拂ヲ致ストカ云フヤウナ、當然行ハナケレバナラヌコトデアル、又其ノ反對ニ或ハ擔保デ金錢ヲ貸ス、手形ノ裏書ヲスルト云フヤウナ類ノコトヘ、是ハ引受業者トシテハ一步進ンダ仕事デアリマシテ、是等ハ特ニ大臣ノ許可ノアッタ場合ニノミ許スノデアル、斯ウ云フ説明デゴザイマシタ、次ハ第五條ニ於キマシテ、證券引受業者ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズト云フコトガアルガ、是ハドウ云フコトデアルカ、是ハ新商法施行法ノ五十六條ニ於キマシテ、特ニ規定ヲ設ケマセヌト此ノ引受業者ハ其ノ仕事ガ出来ナクナルノデアリマスルノデ、商法施行法ノ規定ノ例外規定ノ爲ニ斯ウ云フ條文ヲ置イタノデアル、斯様ナ説明デゴザイマシタ、イタノ以下十九條ハ前申上ゲタヤウナ譯デ省略ヲ致シマス、第二十條ニ至リマシテ銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレ

タル法人、此ノ法人ハドウ云フモノデアルカ、ハ東洋拓殖會社ヲ考ヘテ居ルノデアル、次ニ附則ノ第一項即チ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」、凡ソ何時頃施行サレルノデアルカト云フ間ニ對シマシテ、成ルベク早ク施行致シタイガ、色々諸般ノ手續等モアル爲ニ七月頃ニナラウト考ヘル、斯様ナ答辯デゴザイマシタ、以上申上ゲマシタ所ガ委員會ニ於ケル質問ノ主ナモノデゴザイマス、續キマシテ討論ニ入りマシテ、一委員ヨリハ、從來ハ放任セラレテ居ツテ稍、色々ノ弊害ガ生ジテ居ツタ、或ハ會社同志ノ間ニ無用ノ競争ヲ起ス、又或ハ弱小會社トモ言フベキモノハ無理ナコトヲ致シテ、甚ダ起シテ、債界ノ發達ニ妨ゲラスルヤウナコトモアッタ、此ノ法案ガ成立スレバ誠ニ結構デアルト云フコトニ依ツテ贊成ヲサレマシタ、又一委員カラハ折角斯ク罰則迄設ケテ監督サルノデアルカラ、今少シ嚴重ニサレタ方ガ宜イト迄私ハ思フノデアル、ドウカソレガ故ニ十分ニ此ノ法ノ施行ヲ嚴重ニヤッテ御貰ヒシタイ、此ノ心持ヲ以テ贊成致シタイト云フヤウナ御發議ガゴザイマシテ、政府會一致ヲ以チマシテ本案ハ可決致スベキモノ認メマシタ次第デゴザイマス、以上御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナ
ケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第一讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
讀會ヲ開ク御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 次會ノ議事日程ハ決定次第稟報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會ヲ致シマス

午前十一時五十三分散會

貴族院議事速記録第二十一號
正誤

二五二	三一六	誤	正
二五三	ノ三五	時々	行政
二五六	二八一九	大臣	代議士
		曉星	

